青山学院は2014年、創立140周年を迎えます

AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

2014 No.71

AGUニューズ第71号［2014年4月～5月号］

青山学院大学

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

URL. http://www.aoyama.ac.jp/

特集

♦学長インタビュー

同一キャンパスでの4年間一貫教育の現状と今後の展望

♦国際交流や留学の夢をサポート

TOPICS 経済学部現代経済デザイン学科 電子教科書を導入

国際政治経済学部 グローバル・スタディーズ（英語主）プログラムを開設

経営学部 グローバル化の視点で取り組む新たな学び

誌上公開講座 Aogaku Lecture⑭

生涯学習施設・社会教育施設研究

青山キャンパス

Aoyama Gakuin since 1874

同一キャンパスでの4年間一貫教育の現状と今後の展望

学長 仙波 憲一

同一キャンパスでの4年間一貫教育を導入した2013年度は、大学にとっても学生にとっても変化の年でした。

時代が移り変わる中で「青山学院大学らしさとは何か」を、常に意識している仙波憲一学長に、この1年の振り返りとともに、進むグローバル化に対応した教育について話を聞きました。

「自分たちのキャンパス」という意識の高まり

この1年間は学内にさまざまな変化が見られました。まずは、就学キャンパスの移行による青山キャンパスの混雑ぶり。特に昼休みの17号館は大変混雑していましたが、こうした状況に対して、次第に学生たちが自ら解決策を提案するようになったのです。

たとえば、「エスカレーターではなく、階段を使おう」ですとか、「来年度は1年生がもっと多角的に動けるように、上級生が指導する仕組みをつくろう」「学生のキャンパスサポーターを増やそう」など、今までには見られなかった動きが出てきて驚きました。階段への誘導に関しては、どうすれば良いか意見を出し合うゼミもあり、「今日は○○の香り」と称してハーブの香りで誘導する方法などを実践していた学生グループもいました。

以前、相模原キャンパスの学生たちが自ら学内の美化に努めていたように、青山キャンパスでも自発的な動きが見られ始めました。学生たちが「ここは自分たちのキャンパスだ」という帰属意識を持ち始めたのかもしれません。自分たちのキャンパスを使いやすくするための工夫を考えて提案する。大学側もそれに応えていかなければと思います。

一方、相模原キャンパスでは、学生数が減った状況に学生自身が少し戸惑っているようです。しかし、のびのび過ごせるキャンパスというのは、素晴らしい環境です。青山も相模原も、学生自身が快適に過ごせる方法を考えている最中ですから、うまく順応してほしいと思います。

同一キャンパスでの4年間一貫教育で、上級生・下級生の交流が活発になったのは言うまでもありません。これまでは主に人文・社会科学系学部の学生は1、2年次に相模原キャンパスで教養科目を、3、4年次に青山キャンパスで専門科目を学ぶ傾向にありました。2013年度、青山で2年次を送ることになった学生は選択肢が増えたことで、まず専門科目を学ぶようになり、高学年の学生が教養科目を履修するケースも増えています。青山スタンダードのような教養科目は、基礎的なことをある程度理解した上で学ぶのが理想的ですから、これはとても良い傾向だと思います。

専門性を深める上級年次で再度教養に立ち返り、学びに奥行きを持たせる。真の学びはこの循環があってこそ身に付くものだと考えています。

今の学生たちは本当にまじめです。彼らの頭の中には、常に就職のことがあるのでしょう。しかし、それは本来の「大学で学ぶ」こととは少しかけ離れているように感じます。自分の将来を見定めるためには、もっと幅広い視野を持ってほしいと思います。学生時代にしかできないことに型破りなぐらいにチャレンジしても良いのではないかと思っています。

青山らしい、真のグローバル化を目指して

社会ではグローバル化が加速しています。今年創立140周年を迎える青山学院は、開学当初からグローバルな教育を行っており、本学には、国際的な視点から教育を行う学部・学科が数多くありますが、さらにグローバル化への対応を進めていきます。同時に、全学共通教育のプラットフォームである青山スタンダードのグローバル化の準備も進めており、学びの下支えの部分の強化・推進を図ります。2014年度からは青山スタンダード教育機構の下に「教育開発センター」を設置し、英語で行う科目が履修できるシステムを構築します。

一昔前なら不可能と思われた試みが、現在次々に実行されているのは、本学の教職員に「社会的なグローバル化の流れから立ち遅れてはいけない」という危機意識が広がっている表れでしょう。進展の早さに却って私のほうが驚いているくらいです。

「グローバル化」というのは、何も英語に傾倒することだけではありません。私が考えるグローバル化とは、人種や宗教、考え方などの違いを乗り越え、いつでもどんな人に対しても常に配慮し、共働できる社会性を持つということです。そして、日進月歩で生まれる新たなことにフレキシブルに対応して積極的に学び続け、その裏にある原理原則をきちんと考えることも真のグローバル化といえるでしょう。そのための環境は整えていきますので、学生たちにはしっかりと学び、密度の濃い4年間を過ごすことで成長してほしいと願っています。

協定書を交わす塩竈市 佐藤昭市長（左）と仙波学長（右）

青山学院大学と塩竈市、連携協力に関する協定を締結

2014年2月6日（木）、青山学院大学は、宮城県塩竈市と連携協力に関する協定を締結しました。本協定は、「塩竈市の復興に向けた地域課題の解決、地域の活性化」および「本学の人材育成、研究の発展」を目的に相互に協力、交流していくというものです。塩竈市は東日本大震災で大きな被害を受けた地域のひとつです。本学の学生はこの地域と、松島湾に浮かぶ浦戸諸島において、地元の方々の作業のお手伝いなどの経済復興支援と、学習支援や一緒に運動をするなど、子どもたちとコミュニケーションを図る教育支援を行っています。今後も塩竈市の復興促進、地域活性化に協力するため、協定締結の合意に至りました。支援活動を通して、積極的に助け合う青山らしい人材育成を目指していきます。

特集 国際交流や留学の夢をサポート

キャンパスで国際交流　～青山学院チャットルーム～

青山学院チャットルームは、本学院の大学・大学院から初等部までの在籍学生、生徒、児童、外国人留学生が無料で利用できるコミュニケーション広場です。チャットリーダーの学生を中心に、英語、中国語、韓国語のほか、留学生を対象とした日本語でのチャットを楽しむことができ、キャンパス内で気軽に国際交流が図れます。それぞれの国の文化や風習に触れられるイベントも利用者には大好評で、年間利用者数は延べ9700名（大学生：5300名）に上ります。

利用者は、1回40分のセッションの中で毎回与えられたトピックについて話します。英語や日本語のチャットでは、各自のレベルに合わせて初級、中級、上級のレベルを選択することができます。青山キャンパスでは、1セッション最大8名まで、相模原キャンパスでは1セッション最大4名、キャンパス間や学外施設とのオンラインビデオ通話では最大6名まで参加可能です。

勉強とは違った感覚で外国語に触れてみたい、英会話力を試してみたい、外国の友達をつくりたい、と参加理由はさまざま。堅苦しいディスカッションとは違い、気軽におしゃべりしながら外国人とのコミュニケーションや外国語に対する苦手意識を払拭する良い機会になっています。身近にある国際交流の場を、ぜひ一度利用してみてください。

Christmas Event

Mexico Day

Halloween Event

かき氷祭り

China Day

毎月のように開催するイベントでは、チャットルーム利用者が一堂に会して大いに盛り上がります。上手に話すスキルより、まずはお互いに楽しもうという気持ちが大事。気軽に参加して言葉を交わせば、国際交流はもう始まっています。

AOYAMA GAKUIN CHAT ROOM

※参加費は無料

場所

青山キャンパス：3号館1階
相模原キャンパス：C棟ウェスレー・チャペル1階

スケジュール

英語（月～金）

セッション	
1	11:00－11:30
2	12:30－13:10
3	13:30－14:10
4	15:00－15:40
5	15:50－16:30

日本語 ⇨ 週1回(留学生対象)
中国語・韓国語 ⇨ 週2回

※相模原キャンパスは、パソコン通信による英語のセッションとなります。
※詳細は青山学院チャットルームウェブサイトをご覧ください。

青山学院チャットルーム問い合わせ先
TEL.03-3409-6159
http://web.iec.aoyama.ac.jp/chat/

青山学院チャットルーム　検索

イベント ＊2013年実績

4月	前期チャットルーム開始
5月	Game Day
	Korea Day①
6月	Mexico Day
	Summer Event
	China Day①
	かき氷祭り
	Germany Day①
7月	色紙授与式①
9月	後期チャットルーム開始
10月	NYU session
	China Day②
	Halloween Event
	塩竈市の中学校とのセッション
11月	Germany Day②
	International Day
	秋の運動会
	Korea Day②
12月	Christmas Event
1月	お正月イベント
	色紙授与式②

利用者の声

利用学生　話すことで英語は上達すると実感。楽しくて、毎日のように通っています。

三角（みかど） 成彦さん　文学部史学科3年

英語の本はよく読みますが、英語を話す機会がなかなかありませんでした。「英語を使える場所なら」と思い切って訪ねて以来、ほぼ毎日通い詰め、本から得た英単語や興味のあるフレーズを実際にチャットで試しています。言葉を実際に口に出すとやはり覚えやすく、とても効果的だと感じています。単語だけでしか質問に答えられなかった以前と比べて、今は言葉をつないでフレーズで答えることができるようになりました。

毎日のように通っていますが、英会話力はまだ完璧とはいえません。それでもまた来たいと思える和やかな雰囲気が気に入っています。英語の楽しさを実感し、さらに探究しつつ、将来は留学したいと考えています。

日本語チャットリーダー　話しやすいタイミングで話題を提供し、交流の場を盛り上げるやりがいを感じています。

早田 しおりさん　文学部日本文学科4年

チャットルームのポータルサイトで日本語のチャットリーダーの募集を知り、私が在籍している日本文学科の日本語教育についての学びに生かせるのではないかと思って応募しました。3年次前期からチャットリーダーとして活動しています。留学生ができるだけ日本語を話しやすいようなタイミングと話題の提供を心がけ、話がテーマからそれてしまった場合も、グループ内が盛り上がっていればその雰囲気を維持するようにしています。

英語のチャットに参加するのも楽しくて、ニューヨーク大学の学生とのオンラインビデオ通話によるセッションにも参加しました。決して英語が得意な人ばかりが参加しているわけではありません。むしろ英語が苦手な人こそ、国際交流の魅力に気づける場所ではないでしょうか。

英語チャットリーダー　英語を理解してもらうために、相手を気遣って話すようになりました。

RIMPEL, PAULA MAKO（リンペル ポーラ）さん　国際政治経済学部3年
アメリカからの交換留学生

留学生を対象としたオリエンテーションでチャットリーダー募集の話を聞き、日本人の友達をつくる良い機会だと思って参加しました。授業ではないので、皆気軽に参加しているように思いましたが、私自身がもともと人見知りをする性格なので、最初は緊張しました。日本人学生に英語で質問しても理解してもらえなかったのですが、回を重ねて顔見知りの人が増えると、相手が聞き取りやすいように話す気遣いもできるようになりました。東北の塩竈市の中学生とオンラインビデオ通話でチャットするセッションに参加するなど貴重な経験をして、私の留学生活はさらに充実したものになっています。

英語チャットリーダー　いろいろな国の文化を知るのは楽しく、あっという間に友達が増えました。

DAVIDS, ANDRE ALEKSANDAR（ダーヴィッツ アンドレ）さん　法学部3年
ドイツからの交換留学生

チャットルームではさまざまな国からの留学生に出会え、それぞれの国の文化を学べます。多くのイベントを通じて、日本や中国、韓国など他国の文化に親しむことができ、私も「Germany Day」のイベントでは、母国ドイツの風習を参加者に親しんでもらえるよう努力しました。日本の風習についてはまだまだ知らないことが多く、お正月イベントでは羽子板や福笑いといった日本の遊びを知り、とても新鮮な気持ちで楽しみました。初めて知ったひな祭りの行事など、日本の文化への関心はさらに深まっています。

チャットルームは友達をつくるには最適の場所。留学して半年足らずですが、チャットリーダーを務めるうちに日本人学生の友達もたくさんできました。

国際交流センターの主な留学サポート

近年、国際教育を強化するための取り組みが活発になっていますが、本学ではグローバル化に向け、さまざまな取り組みを推進しています。協定を結んでいる数多くの大学からの外国人留学生を受け入れ、キャンパスにいながら留学生との国際交流が体験できる機会を設けています。

また、「グローバル人材育成」を目的とした学生の外国派遣には特に力を入れており、多くの学生に海外留学の機会を提供するためのプログラムや支援の拡充を図っています。

海外留学を実現するため「留学基礎力」を身に付けることを目的とした授業（留学計画、留学に関する基礎知識を学ぶ、英語による英語4技能向上）が昨年度から青山スタンダード科目「キャリアデザイン・セミナー」のひとつとして開講され、サポートしています。学生には広く世界に目を向け、社会に貢献できる人材として活躍してほしいと考えています。

留学支援の主な取り組み

TOEFL・IELTS対策講座

多くの海外協定校への留学にはTOEFLかIELTSスコアの提出が必要です。これらのスコアアップをサポートするため、2014年度は前期週2回で対策講座を開講します（計33～36時間）。TOEFL対策講座募集ガイダンスは4月8日(火)、11日(金)、IELTSは4月7日(月)、9日（水）に開催予定です。昨年受講した学生からは、「同じ目的を持った仲間と学ぶことで刺激になった」「スコアアップの勉強の指針になった」などの感想が多く寄せられています。

学内留学フェア

学内留学フェアでは、留学に関心がある学部生や高等部生、および保護者の方を対象に、協定校留学（派遣交換留学）システムや海外語学研修についての情報提供を行っています。留学経験者や職員、外部団体による個別相談やセミナーなどを行います。2014年度は、9月中旬に開催予定です。興味のある方はお気軽にご来場ください。

長期海外留学（協定校留学・認定校留学）

長期留学制度には、本学と協定校双方で学生を派遣し合う「協定校留学（派遣交換留学）」と、希望留学先の入学許可を取得した上で申請を行い、認められた場合に留学できる「認定校留学」の2種類があります。協定校へ留学するには語学力をはじめとした出願資格を満たし、学内の選抜試験に合格することが必要です。いずれの制度も休学することなく、4年間で本学を卒業することが可能です。

短期海外留学

短期海外留学プログラムは、語学力の向上と各国の文化や社会に対する国際的視野を広げることを目的とした大学主催の海外語学・文化研修をはじめ、学部・学科主催の特色ある研修も用意しています。

今後の新たな取り組み

AGU International Short Program

本学海外協定校学生を対象に英語で実施する夏の2週間短期受け入れプログラムです。"Discover the REAL TOKYO"と題し、日本語・日本文化・ファッションを中心とした講義と渋谷・原宿など本学周辺のフィールドワーク、東京下町のバスツアーが含まれます。

ASEAN協定校特別派遣・受入れプログラム

経済成長著しいタイ・マレーシア・ブルネイなどのASEAN諸国と日本の懸け橋として活躍できる人材の育成を目的としたプログラムです。本学の学生をASEAN諸国の協定校へ派遣するプログラムと、協定校の学生を本学で受け入れるプログラムがあります。いずれのプログラムも本学が留学諸費用を負担します。

経済学部現代経済デザイン学科で電子教科書を導入！ その効果と今後の展開

経済学部長
宮原 勝一

デジタルで学びの環境を整える

2013年度後期、経済学部では学習支援の一環として、現代経済デザイン学科1年次の必修科目「公共経済学I」で使用する教科書「スティグリッツ公共経済学」の電子教科書を試験的に導入しました。経済学系教科書のデジタル配信としては、日本初の試みです。事前にアンケートを実施し、希望した学生のうち70名にタブレット端末2種類（iPad mini・Nexus7）を用意して貸し出しました。これは現代経済デザイン学科1年次在学生約140名の半数にあたります。

電子教科書を取り入れたのは、「学生たちに、いつでもどこでもきちんと勉強する環境を与えたい」という思いがあったからです。私自身の経験を振り返っても、分厚く重い教科書を毎回の授業に持ってくることを負担に感じる学生は多いと思いますが、電子教科書なら教科書の持ち運びが手軽になります。また、気軽に扱えるタブレット端末なら通学の電車の中でも閲覧できるため、自主学習を促す意味でもまずは4年間を通して使える必修科目の教科書をデジタル配信しようと考えました。教科書を読み解く習慣をつける、あるいは、単にノートを取るのではなく、ノートの内容と教科書を照合しながら勉強する。それによって、知識の定着を図ろうという狙いがあります。

好反応を得て、経済学部新入生全員に配信

実際に電子教科書を半年間使った学生たちの反応はおおむね良好でした。手軽に持ち運べるだけでなく、紙の教科書と同様にマーカーで色をつけたり、メモ書きしたりする機能、さらには文字検索機能によって辞書のような使い方ができるというメリットを実感した学生も少なくありません。タブレット端末の種類によっては、使い勝手に差異はあったようですが、授業中はもちろん、自宅やその他の場所でも教科書を閲覧した結果が得られています。

2014年度は、約500名の経済学部新入生全員に電子教科書を配信できるよう、現在準備中です。端末はパソコン、タブレット、スマートフォンなど各自で用意してもらう必要がありますが、配信料は本学部附置経済研究所で負担します。これから入学する学生たちにとって、デジタル教科書というのはおそらく当たり前の感覚。今後は教科書だけでなく、補助教材や授業で使用する資料などのデータ配信も必要になってくるでしょう。電子教科書の導入で、学生の学習状況の分析などのほか、今後の教材開発にも役立てていきたいと考えています。

2冊分の教科書の内容がタブレット端末で確認できます。

「グローバル・スタディーズ（英語主）プログラム」で 真のグローバル化を目指す国際政治経済学部の新たな学び

国際政治経済学部長
押村 高

画期的な学びのシステム

国際政治経済学部では、真のグローバル化を目指す取り組みとして、2014年度以降入学生を対象に、「グローバル・スタディーズ（英語主）プログラム」を開設します。このプログラムは、専門科目を英語で学びたい選択希望者のための限定プログラムです。これに伴い2015年度以降、英語開講の専門科目を大幅に増やします。修了要件は、本学部の卒業要件単位134単位の半数である67単位以上を英語開講科目で修得することです。本プログラムを修了した学生に対して、修了証を授与するとともに、留学を目指す際に有利になるような仕組みづくりを検討しています。英語で行う専門科目を受講することは、留学のチャンスが広がると同時に、学生自身にとっても自信となり、就職活動においても大きな強みとなることでしょう。

グローバル・スタディーズ（英語主）プログラムの概要

- ●青山スタンダード科目
- ●外国語科目
- ●学科科目
- ●自由選択科目

→ 卒業要件単位134単位
- 英語で学ぶ授業（67単位以上）
- 日本語で学ぶ授業

真のグローバル化を目指して

現在、本学で4年間学ぶ留学生は、日本語ができるアジア圏出身の学生が大半を占めています。本プログラムの第1の目的はアジア圏のみならず、今後は広く諸外国からも留学生を受け入れることを目指しています。日本人学生にとっても、英語で行う専門科目を受講することは海外進出の大きな足がかりとなります。留学生を受け入れ、送り出すための大学の体制づくりの基本として、英語による学びの環境を整えることは、大変重要であり、同時に海外の大学とのネットワークを成立させるためにも必須です。加えて、高校まですべて英語で授業を受けてきた帰国子女たちに対しても、日本語で専門科目を受講することへの不安を取り除く狙いもあります。

これまで本学は「英語の青山」と称されてきましたが、国際政治経済学部は国際教育のパイオニアとして原点に立ち返り、真のグローバル化を目指します。将来的には、日本語を使わなくても4年間の学びを修了できる仕組みも構想しています。英語力を徹底的に鍛え上げ、専門性も究める新たな学びのシステムを立ち上げ、社会とも連携を取りつつ、グローバル社会で活躍できる人を育てていきたいと考えています。

グローバル化の視点で取り組む経営学部の新たな学び

経営学部長
田中 正郎

徹底的なリーディングから、英語4技能の向上を目指す

グローバル化というと語学教育への取り組みが主体となる傾向がありますが、本学部でも英語教育を重視し2013年度から英語必修科目は少人数制（1クラス12〜16名）を導入しました。カリキュラムの変更も行い、1年次には「英語集中A・B」と「英語総合A・B」、2年次には「英語集中C・D」と「英語総合C・D」の科目を設定しています。特に「英語集中A・B」では、まず読解力の向上を目指し、さらに「書く」「聴く」「話す」力の向上につなげます。

話を聞いて考えたことを自分の意見として人前で発表するには、語彙・文法・構文・知識などを習得し、蓄積していくことが必要です。そのためには、まず徹底的に読み取る力を鍛え上げ、「書く」「聴く」「話す」力を高めていく、それが「英語集中A・B」です。

「読解」の勉強といっても、ただ英語の文献を読むのではなく、「本当にそうなのか」と批判的に読むことで、批判する力と推論する力をつけていきます。また、少人数制であれば、必ず授業中に発言する機会があり、誰一人として傍観者ではいられません。授業に参加することが強制されます。クラスは入学直後に受験するTOEFL-ITPのスコアによって能力別に編成するため、同レベルの成績の学生たちが緊張感を持って自立的に学ぶことができます。

新カリキュラム導入から1年が経過し、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能の学習効果の確認と、次年度への学びにつなげるために、後期授業を終えた後、希望者は再度TOEFL-ITPを受験。この結果、受験した学生の72%が入学時のスコアより高い得点結果を得ました。新たな学びの効果が示されると同時に、今後の課題も浮き彫りになりました。学びの効果があまり実感できなかった学生への対応策も考え、これからの授業をどのように展開していくか、さらにブラッシュアップしていきます。

日本の経営マインドを英語で理解する9つの専門科目

本学部では、国と国、あるいは異なる考え方の者同士、心を許し、寛容の精神で互いに交流することがグローバル化において大切なことだと考えています。単なる英語力の向上を目指すのではなく、キリスト教主義の精神を持って教育していくことが必要だと捉えています。

かつて日本人が、中国あるいは欧米の文化や思想、学問を取り入れようとしたことを、「和魂漢才」「和魂洋才」などと表現しますが、現代では、特にキリスト教文化圏の人たちの精神の価値観に基づき日本人の価値観を伝えること、つまり「洋魂和才」が求められています。本学部の教育はまさに、「洋魂和才」の人材を養成するものです。キリスト教主義の精神に基づいて、日本で培われた優れた経営技術を海外に向けて、自分の言葉で発信できる人材の育成を目指し、3・4年生を対象とした英語で行う専門科目を9科目設置しています。これらはグローバルビジネスのスキルを習得するための授業で、企業経営やマーケティングに不可欠な幅広い知識を習得します。ビジネスに必要な「英語」を学ぶのではなく、英語をあくまでもツールとして使用して日本の特徴的な経営技術や日本の経営マインドを、海外に向けてわかりやすく伝えられる人材を育てることが目的のため、ネイティブ・スピーカーの教員ではなく、あえて日本人教員による講義を行っています。

とはいえ、英語力がなければ内容を理解できませんから、受講することは学生自身の実力を確認する場にもなります。能力をさらに伸ばす者、学び方を見直す者などさまざまですが、履修した学生は人間的に大きな成長を遂げています。大学4年間の学びの中で、振り返りながら次のステップに進むことが大事なのではないでしょうか。

理論と実践をフィードバックする疑似体験学習

本学部では、理論と実践の両方からの学びも整備しています。経営学科必修の専門科目「マネジメント基礎A」では、学部オリジナルのマネジメント・ゲームを導入し、積極的に課題に取り組むアクティブ・ラーニング型授業を展開します。学生たちはゲーム感覚で企業経営を疑似体験しながら、より良いマネジメントを目指します。

一方、マーケティング学科必修の専門科目となる「マーケティング・ベーシックスI」は、2コマ連続（90分＋90分）のPBL（Project-Based Learning：問題解決型学習）方式で行います。これはマーケティングの現場を疑似体験することによって、正解のない問題に対する解決策を見いだし、そして考えることを学ぶ授業です。2014年度には、アディダス ジャパン株式会社と日本コカ・コーラ株式会社の協力を得て課題演習を行う予定で、現実のマーケティングの問題に対する科学的なアプローチ方法と自分自身の課題を知ることを目標としています。

学生たちは少人数のグループに分かれて、企業から与えられた課題に取り組みますが、中間発表の際、担当者からのリアルなフィードバックや講評に、マーケティングの厳しさを実感するでしょう。専門知識を持たずに授業に臨むのですから、厳しい評価は当たり前。しかし、それによって学生たちは、マーケティングの基礎知識に関する講義で自分に今何が足りないのかを知り、その足りない知識を習得しながら自分で考える力を身に付けていくのです。

ビジネスに正解はありません。大事なのは、最終発表での結果ではなく、結果を導き出すまでのプロセスです。プロセスを振り返りながら、掘り下げて考えていくことこそが重要なのです。対応してくださる企業にも、これからの日本を支える若者たちにビジネスの厳しさを体感してほしいという思いがあります。まさに、学生にグローバルなビジネス環境で将来活躍してほしいという教員や企業の熱意が反映された授業だと思います。

英語集中Aの授業風景

マーケティング・ベーシックスIの授業風景

誌上公開講座 070

Aogaku Lecture 14

生涯学習施設・社会教育施設研究

鈴木 眞理
教育人間科学部教育学科 教授

教育というのは、「学校教育」だけを指すのではありません。「家庭教育」や、学校以外の場所で子どもや大人が地域で何らかの学習活動を行うことを支援する「社会教育」も含まれます。さらに、「生涯学習」という概念も社会教育に関係深いものです。

本ゼミナール（ゼミ）では、「生涯学習施設・社会教育施設研究」というテーマのとおり、生涯学習や社会教育で活用する施設について研究しています。教育人間科学部において、社会教育や生涯学習について学ぶ授業はあまり多くはありません。だからこそ、学生たちにしっかり理解してもらうことが必要だと思って取り組んでいます。

社会教育施設というと、まずは図書館、公民館、博物館などが挙げられます。また、「青年の家」や「少年自然の家」などの青少年教育施設や「婦人教育センター」といった女性のための施設、アスレティッククラブのようなスポーツセンターも含まれます。ところが、若い人たちは、公民館が何をする場所なのかをよく知らない傾向にあります。前期では、まず「社会教育とは何か」「社会教育施設とは何か」の総論を2〜3回の体系的な講義で学び、10名ほどのゼミ学生が共通のテキストを使って、各施設の役割や目的についての理解を深めます。

後期では、各学生が自由に選択した施設について研究します。たとえば、博物館の場合、来館客は展示品を見るために訪れますが、私たちは、国立なのか公立なのか、また私立なのか財団立なのか、どのような機関が設立したもので、運営の目的は何かといったことに注目します。建築家が建物の資材や構造に関心があるようなものといっても良いかもしれません。さらに、法律的な位置づけや職員数、展示の内容や開催の頻度など、詳しく調べていくうちに、それぞれの施設の違いが見えてきます。

本ゼミでは、社会教育施設を訪問したり、ゼミ合宿を行っています。これまで、北海道のお菓子メーカーが運営する美術村や東京のハンセン病資料館、代々木オリンピックセンターなど、数々の施設に足を運びました。福岡や信州などの青少年施設で実習をした学生もいます。施設の内容を調べれば調べるほど、教育の原理・原則が見えてきます。また、新たな視点も見つかります。

4年次では、卒業論文に取り組みます。3年次の学生たちには「卒業論文につながるような研究をしっかりやるように」と言っています。ゼミのレジュメは３〜４割まとめた時点で一度チェックし、研究の方向性を指導します。ゼミ活動というと議論を戦わせるイメージが強いかもしれませんが、まずはきちんとした知識を持ち、自分でよく考えることができなければ、議論にならないというのが私の考え方です。ただ、表現の方法を身に付けるだけではなく、まずは自分の中に正しい知識を蓄え、考えを深めることが大切です。すぐに成長ぶりが目に見えるものではありませんが、こうした学びによって学生たちは、よく考え、自分の言葉で語る力が身に付くと信じています。

鈴木ゼミ学生
飯塚 彩乃さん
教育人間科学部教育学科3年

教育学科で鈴木先生の授業を受けたとき、なんて面白い先生だろうと思い、ぜひゼミにも参加したいと迷わず選択しました。普段は楽しい語り口で講義してくださいますが、発表の際のレジュメのチェックはとても厳しいです。たとえば、ある著者の文献が別の著者の編集物の中で紹介されている場合に、どちらを先に表記すべきかなどの、見逃してしまいそうな部分もしっかりチェックしてくださいます。鈴木先生は、文章の書き方や形式に対してではなく、誰が何のために書いているのかをきちんと位置づけるということを常に大切にするようにと言われます。そのおかげで、ゼミの授業では何がテーマとなるのかをじっくり考えて書く習慣が身に付いたと思いますし、本質を捉えることの重要性を教えられていると実感しています。

青山学院大学のキャリア・サポート

2013年12月1日現在の文部科学省・厚生労働省調査による大学生就職内定率（就職希望者に対する値であり標本調査で実施）は76.6%と、昨年の同じ時点を1.6ポイント上回り、3年連続の改善となりました。対象となる本学の4年生（2014年3月卒業見込者）のデータは、例年どおり前記調査をかなり上回っているものと思われます。また、2013年3月の本学の卒業生の進路決定率（就職者+進学者）は86.5%（前年度84.7%）、一時的就業を除いた就職率は77.2%（同75.1%）であり、文部科学省が実施する「学校基本調査」の４年制大学卒業者の就職率が63.9%（同61.6%）であったことから、いずれも全国平均を大きく上回っており、厳しい就職環境の下で本学学生はよく健闘したと評価できるでしょう。これらの学生は、日本経済団体連合会の「採用選考に関する企業の倫理憲章」の下で就職活動を行った最初の学生たちです。企業の広報活動の解禁が遅くなったものの、面接等の実質的な選考活動については、従来どおり4月1日から開始されたことから、周到な準備いかんで、早い時期に第一志望の企業から内定をもらった学生と長期化せざるを得ない学生という二極化の傾向が顕著に表れました。4年生（2014年3月卒業見込者）も同じスケジュールで企業の採用活動が進んだことから、4月に最初の就職ガイダンスを開催し、職業選択の関心を高め、就職活動に臨む心構えや、事前準備の必要性について周知徹底しました。3年生（2015年3月卒業見込者）に対しては、就職環境の大きな変化を早くから理解してもらうために、5月に第1回の就職ガイダンスを開催するとともに、9月にもおのおのの時期に応じたガイダンスを行いました。1、2年生対象には、就学キャンパスの再配置に伴い、所属キャンパスの学問領域や特性に合わせて4年間一貫の就職支援体制の強化を図っています。

企業の採用活動は、2013年9月に日本経済団体連合会が制定した大学卒業予定者の「採用選考に関する指針」により、企業の採用選考の広報活動の開始が3年生の3月1日以降、選考活動は4年生の8月1日以降へ変更され、2年生（2016年3月卒業見込者）から適用されることになりました。来年度以降の進路・就職支援の大幅な見直しが必要となっています。

進路・就職支援のプロセス（2014年度 予定）

学部1・2年次　自分の将来の進路について考え行動する

学生生活の充実：学業／部活／サークル／アドバイザー・グループ／インターンシップ／アルバイト／旅行

【主な進路・就職支援行事】
- 進路・就職オリエンテーション
- 自己価値発見セミナー
- インターンシップガイダンス
- インターンシップマナー講座
- 企業見学
- OB・OGによる仕事・業界理解セミナー
- 〈公務員〉集中講座説明会

【随時】個別相談

学部3年次、修士1年次　自分の将来の進路に向けた具体的な行動を取る

自己分析／業界・企業研究

【主な進路・就職支援行事】

4〜8月
- 進路・就職ガイダンス①
- U・Iターンセミナー①
- OB・OGによる仕事・業界理解セミナー
- 〈教員〉公立学校採用試験対策セミナー
- インターンシップガイダンス
- 英文履歴書・面接対策講座
- 〈公務員〉対策学外講座説明会

9月
- 進路・就職ガイダンス②

10〜2月
- 自己分析セミナー
- 業界・職種の理解
- 一般常識模擬試験
- 模擬グループ面接
- ビジネスマナーセミナー
- 内定者による報告会
- 進路・就職ガイダンス③
- 〈公務員〉業務説明会
- エントリーシート対策講座
- SPI模擬試験
- 面接講座
- 模擬グループディスカッション
- U・Iターンセミナー②
- OB・OGによる仕事、業界理解セミナー
- 〈公務員〉ガイダンス
- 〈教員〉私立小中高教員就職セミナー

企業との接触開始　3月〜
- 学内企業説明会
- OB・OGによる模擬面接
- 〈公務員〉試験合格者報告会
- 他大学合同模擬グループディスカッション
- 〈教員〉公立学校教員選考学内説明会

【随時】個別相談

学部4年次、修士2年次

エントリー
履歴書・エントリーシート提出
企業説明会
選考試験（筆記、面接）

内々定　8月〜
内定　10月〜

【主な進路・就職支援行事】
- 面接対策実践編
- 働く前の法知識
- 〈公務員〉面接対策講座
- 学内企業説明会
- リスタート就職ガイダンス
- 面接対策実践編
- 個別相談会

【随時】個別相談

卒業、修了

※行事は変更が生じる場合があります

進路の報告

卒業・修了が決定したみなさんへ　進路届の提出先

青山キャンパス…「Web Ash」で入力、もしくは進路・就職センターへ「進路届」を提出
相模原キャンパス…「Web Ash」で入力、もしくは相模原事務部進路・就職課へ「進路届」を提出
※青山キャンパス所属の大学院生については、学位記を受け取る際に、「進路届」を提出していただきます。

内定者の就職活動レポート

亀山 直樹 さん
経営学部経営学科4年
日本航空株式会社 業務企画職（地上職 事務系）内定

大学主催の就活セミナーや就職情報サイトなどを活用し、自分なりに対策を行っていましたが、最初の企業面接で不合格となり危機感を覚えました。面接が苦手だと気づき、克服したいと思い進路・就職センターへ相談に行きました。何度も通い模擬面接を受ける中でアドバイスを頂き、難しい用語にとらわれすぎていたことに気づきました。それからは自分らしい言葉で話すことを心がけ、内定を頂くことができました。

本学の進路・就職支援体制

1. 個別相談

学生一人ひとりの「納得できる進路選択」を目指し、専門のキャリアカウンセラーを含めた全スタッフで個別相談に取り組んでいるほか、応募書類のアドバイスも行っています。

2. 進路・就職支援行事の開催

1・2年次から進路への意識を高めるため、卒業生による講演やキャリアデザイン講座、インターンシップの説明会などを実施しています。また、多様な進路に対応すべく、公務員・教員を目指す学生への支援行事にも力を入れています。さらに、年間約1,100社の優良企業による会社説明会を学内で実施しています。

3. 就職活動情報・求人情報・卒業生情報提供

本学に送付される求人票や会社案内、内定者による体験記など、本学ならではの資料を完備しており、OB・OG名簿も閲覧できます。

4. 進路状況・支援体制満足度調査

進路把握率は、数年来ほぼ100%を保ち、学部別の進路・就職状況、内定先一覧など詳細な統計資料を提供しています。学生の進路満足度・支援体制への満足度調査により、常に支援体制の改善・見直しを図っています。

5. 企業との情報交換

青山・相模原の両キャンパスを合わせ、年間約1,450社の採用担当者に来訪いただき、企業概要や採用実績、採用計画など情報収集に努めています。こうした関係づくりが、追加や臨時の求人情報を得る機会ともなっています。

6. OB・OGからの協力

校友会組織と連携し、各界で活躍されているOB・OGの方々にさまざまな支援をいただいています。青山マスコミ会による「マスコミQ&A」、本学出身の社会保険労務士が講師を務める「社会人準備講座」のほか、「卒業生による業界研究」「模擬面接会」など優秀な先輩たちの卒業後の経験を生かした支援行事を開催しています。

なお、卒業後も就職活動を継続する学生に対しては、希望に応じた個別相談や資料室利用、進路就職支援システム利用を可能にするなど、バックアップ体制を整えています。

青山スタンダード科目による社会的・職業的自立力育成

1年次の「キャリアデザイン・セミナー」で働く意味への理解や、将来を見据えて専門科目を選択する力を養います。それをベースに、2年次には「個性や能力の理解」と実践力を養成し、3年次に各自の専門に立脚した仕事力と職業選択力を高め、自らの未来図を描けるように導きます。

本学独自の進路就職支援システム「Web Ash」を活用してください

求人票や会社説明会の案内、業種や職種、都道府県別に求人票を検索することができます。内定者の残した企業別の入社試験報告、公務員試験合格者報告も貴重な資料です。そのほかにもインターンシップ情報の提供、企業ごとのアドバイザーリストの閲覧や学内行事の動画配信等、多くの機能を備えています。学内のパソコンのみならず、学外からも終日閲覧が可能です。

Information

卒業生のみなさまへ

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織され、すべての卒業生が正会員として迎えられます。国内56カ所・海外19カ所の地域支部のほか、各学部・学科ごとの同窓会や、職種別団体・部活動OB団体等の参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。ぜひ積極的に校友会各組織にご参加ください。

なお、校友会に関する事務局は「青山学院校友センター」となります。校友センターでは卒業生の住所など基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口となっています。氏名、住所等に変更が生じた場合は、必ず校友センターへお知らせください。校友センターに寄せられた個人情報は「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」にのっとって厳重に管理し、青山学院および校友会活動に関わることにのみ活用されます。

青山学院校友会ウェブサイト　http://www.alumni-aogaku.jp/

青山学院の広報誌　卒業後、『AGUニューズ』の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生のみなさまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』
住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。

住所変更・発送に関する問い合わせ先
青山学院校友センター　TEL.03-3409-6645
E-mail　agkoyu@aoyamagakuin.jp

『青山学報』
1916年に創刊した青山学院の機関誌で、幼稚園から大学・大学院まで青山学院全体の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円です。

定期購読に関する問い合わせ先
青山学院購買会　TEL.03-3409-4401

2013年度 退職専任教員

2014年3月末日をもって退職される専任教員は次の方々です（○印は定年退職される教員）

三嶋　輝夫　文学部史学科教授
野口　芳宣　教育人間科学部教育学科特任教授
駒屋　雄高　教育人間科学部心理学科助教
吉澤　英里　教育人間科学部心理学科助手
舟島　義人　経済学部助教
藤森　裕美　経済学部助手
GIVENS,S.B.　法学部法学科教授
和田　剛明　経営学部経営学科助教
嶋田　順好　国際政治経済学部教授
中山　俊宏　国際政治経済学部国際政治学科教授
○港　　徹雄　国際政治経済学部国際経済学科教授
伊藤真利子　総合文化政策学部助教
○薩摩　順吉　理工学部物理・数理学科教授
藤井　康裕　理工学部物理・数理学科助教
○稲吉　倫子　理工学部化学・生命科学科理工学部講師
内田　ゆず　理工学部電気電子工学科助教
鳥阪　綾子　理工学部機械創造工学科助教
中田　洋平　理工学部経営システム工学科助教
山崎　友彰　理工学部経営システム工学科助教
○安瀬美知子　理工学部経営システム工学科理工学部講師
○村川　久子　社会情報学部社会情報学科教授
○松浦　祥子　国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻教授
○唐沢　昌敬　会計プロフェッション研究科会計プロフェッション専攻教授
山下祐一郎　情報メディアセンター助手

その他の月日をもって退職された教員
○髙田　賢一　文学部英米文学科教授
LEBLOND,A.　文学部フランス文学科准教授（専任待遇）
鈴木　博之　総合文化政策学部総合文化政策学科教授
井上　剛志　理工学部物理・数理学科助教
橋本　宣慶　理工学部機械創造工学科助教
中鉢　直宏　情報メディアセンター助手
鈴木　　聡　ヒューマン・イノベーション研究センター助手

2014年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験報告

2014年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験はすべての試験が終了し、志願者数は、一般入学試験は42,121名（前年度42,140名）、大学入試センター試験利用入学試験は13,772名（前年度14,423名）でした。

なお一般入学試験においては、最も志願者数の多い試験日で約6,000名の受験生が青山キャンパスに来校しました。大雪など悪天候の日程もありましたが、例年どおり本学学生団体（吹奏楽バトントワリング部ならびにキャンパスツアーガイドボランティア）や入試アシスタント学生が、多くの受験生の正門入場や試験室への適切な誘導、試験室補助などを行い、今年も学生の大きな協力を得て一般入学試験は無事に終了しました。

正門で受験票を確認する
吹奏楽バトントワリング部の学生たち

試験室に受験生を誘導する
キャンパスツアーガイドボランティアの学生たち

2014年度 学年初頭行事

2014年度の授業は4月7日（月）から始まります。授業開始に先立ち、3月28日（金）～4月5日（土）に書類配布や履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。研究科・専攻※、学部・学科、学年によってスケジュールが異なるので、学生ポータル「2014年度初頭行事日程」を確認し、指定の日時・場所に必ず登校してください。

※専門職大学院の初頭行事日程は他の研究科・学部と異なります。学生ポータルのメッセージ欄でご確認ください。

2014年度 ペアレンツウィークエンド(父母懇談会)

本学では、大学後援会事業の一環として、大学の近況を保護者のみなさまにお知らせするとともに、ご子女の大学生活等についてのご相談やご意見を伺い、それを大学運営に反映させることを目的に懇談会を実施しています。

2014年度ペアレンツウィークエンドにつきましては、保護者のみなさまからの貴重なご意見やご指摘を踏まえ、開催内容を大幅に見直し新しいスタイルで開催予定です。開催概要としては、首都圏（青山キャンパスおよび相模原キャンパス）においては、①新入生の保護者の方々を対象とした「キャンパス見学会（キャンパスツアー等）」を予定、②3年生（2014年度は4年生を含む）の保護者の方々を対象とした学業説明会、就職説明会を予定しております。また、地区（全国主要都市）においては、全体説明会（大学教員からの近況報告および進路就職説明）、懇談会、個別面談を予定しております。

開催時期につきましては、首都圏は５月～６月、地区は7月～８月にかけての実施予定となっております。なお、お申し込み方法や開催内容の詳細なご案内は４月下旬～５月上旬にお送りいたします。本学ウェブサイトでも４月以降、情報を更新していく予定です。どうぞご参照ください。

http://www.aoyama.ac.jp/life/parents/parentsweekend/
【問い合わせ先】庶務部庶務課　TEL. 03-3409-8568

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・大学院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。青山学院大学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することのないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

［特　徴］
1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります（在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます）。
3. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振り込まれます。
4. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

［利用資格］ 本学学部生・大学院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

［必要書類］
1. 資金使途確認資料…学費納付書等
2. 本人確認資料……印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか1通
3. 所得確認資料……所得証明書、源泉徴収票等のいずれか1通

［注意事項］
1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費（授業料他）等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。

［提携銀行］
三井住友銀行
　渋谷支店お客様相談一課　　TEL. 03-3463-0102
みずほ銀行
　渋谷中央支店ローン担当係　TEL. 03-3462-0313
三菱東京UFJ銀行
　全国の支店

代表問い合わせ支店

2014年度 オープンキャンパス・理系女子対象イベント開催日程

［オープンキャンパス（事前申込制）］

青山キャンパス
8月20日（水）：文学部、教育人間科学部、経済学部、法学部、総合文化政策学部
8月21日（木）：文学部、経済学部、経営学部、国際政治経済学部
　　総合文化政策学部、社会情報学部
8月22日（金）：教育人間科学部、法学部、経営学部、国際政治経済学部、理工学部

相模原キャンパス
7月27日（日）：理工学部、社会情報学部

［理系女子対象イベント（事前申込制）］

相模原キャンパス
6月14日（土）午後　対象：理系分野に興味のある女子中高生と保護者

※開催内容等の詳細は、決定次第本学ウェブサイトに公開します。

2013年度文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」の支援対象校に選定されました

本学における大学教育の質的転換や産業界と国内外の大学等との連携した教育研究への取り組み実績が、「私立大学等改革総合支援事業」の支援対象校に選定されました。その結果、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」として、下記の2タイプの設備費の補助を受けました。

①大学教育質転換型：建学の精神を生かした大学教育の質向上
「アクティブラーニング対応AV設備の整備（青山キャンパス）」
②多様な連携型：産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究
「周波数選択性を有する建材用電波シールド技術の開発（理工学部橋本研究室）」

青山学院エバーグリーン募金　奨学金募金

『青山学院スカラーシップ』による2013年度冠奨学金をご紹介いたします

青山学院スカラーシップは、青山学院で学ぶ在校生を支援するご寄付による給付型奨学金制度です。特に「冠奨学金」は、寄付者のお名前を冠し、ご意向に沿って給付できる奨学金です。年々、ご支援が増え、2013年度は42件の冠奨学金を実施することができました。みなさまからのご寄付は、本学や奨学生にとって、経済面だけではなく、精神面でも大きな励ましと支えになっております。奨学金募金にご支援をお願いいたします。

2013年度奨学金

奨学金名	給付人数	給付単価（単位円）
薦田先端学術奨学金	理工学研究科による配分	
青山さゆり会	10	200,000
向山泰子奨学金	22	250,000
豊田奨学金	1	150,000
古坂奨学金	1	150,000
ビリングスレー奨学金	1	150,000
エバーグリーン基金奨学金	2	150,000
青山学院維持協力会奨学金	50	200,000
青山学院大学経済学部同窓会奨学金	2	150,000
青山学院女子短期大学同窓会奨学金	4	150,000
みかづき会奨学金	2	250,000
青山学院メソジスト奨学金	3	150,000
青山学院宗教主任会奨学金	3	150,000
青山学院宗教センター	2	150,000
文学部奨学金	2	300,000
アイビックス奨学金	20	150,000
ACG奨学金	1	150,000
清水建設奨学金	20	300,000
（医）立星会奨学金	2	200,000
熊谷正寿夢手帳奨学金	22	300,000
GMOインターネット奨学金	20	500,000
嶋田奨学金	1	150,000

奨学金名	給付人数	給付単価（単位円）
和田スポーツ奨学金	1	250,000
深町奨学金	2〜3	1,000,000〜1,500,000
みどりの奨学金	2	150,000
青山礼美奨学金	1	150,000
貫　達人奨学金	1	150,000
宮﨑　輝・淑子奨学金	4	150,000
RHS奨学金	1 2	400,000 300,000
宮島中世英語英文学奨学金	1	150,000
SIPEC2奨学金	1	160,000
SIPEC3奨学金	1	160,000
本多記念奨学金	1	300,000
寺村眞佐子奨学金	1	150,000
寺村眞佐子奨学金(スポーツ)	1	150,000
さくら奨学金	1	150,000
佐々木グローバル奨学金	4	150,000
寺戸一郎奨学金	1	160,000
竹田奨学金	1	150,000
青山オーナー会奨学金	2	150,000
エバーグリーン奨学金	57	150,000

奨学金名	給付人数	金額（単位円）
学校寄付金（校友会）	各設置学校に配分	10,000,000

毎月千円からのご寄付も可能です

Web決済システム（クレジットカード決済、インターネットバンキング決済（ペイジー）、コンビニ決済）を導入しています。

青山学院　募金　検索

青山学院エバーグリーン募金問い合わせ先

青山学院募金事業局（間島記念館２階）
TEL：03-3409-6208　FAX：03-3409-3890
Mail：bokin@aoyamagakuin.jp
http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html

Club & Circle 21 パワーリフティング部

つらい練習に耐え実力と自信が身に付きました。

青山学院記念館（大学体育館）のフィットネスセンターで週3回、ベンチプレスやスクワットといった競技種目をメインに練習しています。

2012年度に関東学生パワーリフティング選手権大会で創部初の団体優勝を成し遂げてから、現在までこの大会では3大会連続で団体優勝を果たしています。パワーリフティングは個人競技なので部の団結は意識していませんでしたが、初めて団体優勝してからは、部員一人ひとりが団体の勝利を意識して団結するようになりました。私個人としても、昨年「第40回全日本学生パワーリフティング選手権大会」に出場し準優勝を収めることができました。

部員は12名と少ないのですが、ほとんどの選手が全国、もしくは世界レベルの実力を持っています。しかし、私を含め部員の1/3はパワーリフティング未経験で、しかも運動音痴だった人ばかりです。そんな私たちでも、日々のつらい練習に耐えることで全国レベルの選手になることができ、自分の可能性を実感して自信もつきました。パワーリフティング部ではどんな人でも受け入れます。ぜひ一度、練習の見学にいらしてください。　（主将：経済学部経済学科3年　金子 欣哉）

AGUニューズについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニューズ」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニューズ専用スタンドにて配布しています。

●AGUニューズのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
●AGUニューズを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口　青山キャンパス→スチューデントセンター・学生生活部
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活課

発行元：青山学院大学 入学広報部
TEL.03-3409-8627

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2014青山学院大学

●2014年3月20日発行●